ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)	区分・【新主題】/（分野）	授業形式
E142J013	彫刻演習 (Seminar of sculpture)		対面

必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態
選択	2	3	教育学部 ≪令和２年度以降入学生用≫		木3	日本語		単独

担当教員	氏名　村上　佑介 E-mail　y-murakami@oita-u.ac.jp　内線　7594
授業の概要	この授業では、「サイト・スペシフィック」という概念をキーワードに、その地域の意味合いや、物理的な空間と繋がりを持つパブリックアートの文献調査、実地調査、作品制作を行うことで、社会における彫刻の在り方について考察する。

具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7
目標1	環境にあった立体作品をイメージし、形にすることができる。	○		○				
目標2	学習成果を様々機材や素材などを活用し、効果的に発表（プレゼンテーション）することができる。		○	○				
目標3	地域における芸術に対し自分なりの意見を持つことができる。	○			○			
目標4								
目標5								
目標6								
目標7								
目標8								
目標9								
目標10								
	各DPへの関連度（計10）	4	2	2	2			

授業の内容

1	ガイダンス及び課題について：サイト・スペシフィックに関する基本的な定義を説明した上で、本授業の目的・目標を明示し、課題意識を与える。
2	「サイト・スペシフィック・アート」について：日本および世界で行われているアートプロジェクトより
3	「パブリックアート」について：身近なパブリックアートより
4	マケット制作①：場所の選定
5	マケット制作②：アイデアスケッチ
6	マケット制作③：土台作り（スタイロフォームの加工）　＋パブリックアートの調査発表①
7	マケット制作④：本体（芯材制作）　＋パブリックアートの調査発表②
8	マケット制作⑤：本体（肉付け）
9	マケット制作⑥：本体（成形）
10	マケット制作⑦：本体（細部）
11	マケット制作⑧：本体（着色）
12	マケット制作⑨：背景（建物など）
13	マケット制作⑩：背景（人物など）
14	マケット提出、プレゼンテーション、講評会
15	「総括」：本授業における成果と課題を理解する。

アクティブラーニング				その他の工夫
	A:知識の定着・確認	○	制作中に各個人作品の指導のなかで、確認、意見交換を行う。	なし。
	B:意見の表現・交換	○	表現意図とプロセスについて効果的にプレゼンテーションする。	
	C:応用志向	○		
	D:知識の活用・創造	○		

授業時間外学修の内容と想定時間		
	準備学修	自身の身の回りにあるパブリックアートについて興味を持ち、調査・考察を行う（25ｈ）
	事後学修	自他の発表やマケット制作を基に、地域のアートプロジェクトやサイト・スペシフィック・アートに目を向け、その意義や目的について考察する（35ｈ）
	想定時間合計	60

教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
参考書	・浦島茂世『パブリックアート入門　カラー版　タダで観られるけど、タダならぬアートの世界』イースト・プレス，2023，ISBN978-4-7816-8089-7 ・竹田直樹『日本の彫刻設置事業』公人の友社，1997，ISBN978-4-87555-259-8 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説　美術編』（平成29年告示），ISBN978-4-536-59013-6 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説　芸術（音楽 美術 工芸 書道）編 音楽編 美術編』（平成30年7月），ISBN978-4-877-30420-1

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	スケッチ及び完成作品の提出	60%	○									
	パブリックアートの調査と発表	20%		○	○							
	完成作品のプレゼンテーションおよびレポート	20%	○		○							

注意事項	実習では汚れてもよい服装・靴を着用のこと。 彫刻・工芸室にある材料は使用可だが、その他必要な材料は各自で準備すること。
備考	なし。
リンク	URL
担当教員の実務経験の有無	○
教員の実務経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の指導に関わる実務経験者	なし。
実務経験をいかした教育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。